

年度のスタートに当たり

よりよいパートナーシップの確立

コロナ禍に加え、世界の平和を脅かす危機の終焉が見えません。そうした中、聖徳太子の「十七条憲法」にある、次の文言が想起されます。

和を以て貴しとなす。

聖徳太子が生きた当時は、権力闘争が絶えず、いわば血塗られた時代でもあったのです。



私がこの文言を取り上げた理由が、もう一つあります。それは、教育委員会と学校の在るべき姿を示唆していると考えたからです。

「和」とは、単に仲よくすることではありません。互いに相手を尊重し、協力し合うという意味があります。教育委員会には、教育委員会にしかできないことがある。学校には、学校にしかできないことがある。そして、双方が力を合わせてこそ、実現することがあります。こうした事実を踏まえた上で、よりよいパートナーシップを築いていこうではありませんか。

よく、副校長は振り向けば校長がいるが、校長は孤独である、と言われます。年度のスタートに当たり、羽村市教育委員会は常に校長先生を支える存在でありたいと考えています。職員一同、各校の課題の解決に向けて、尽力する所存です。どうぞ、よろしくをお願いします。

Bad News is Good News

コマツ電子金属(株)社長 中西英介

リーダーにとって最も大切なことの一つは、自分を取り巻く周囲からどれだけ正確な情報が迅速に入ってくるかということであり、それらの情報を的確に分析し具体的な指示をスピーディーに与えることだと思う。特に、悪い知らせをいかに早く得られるか、ということが大切である。

出典：PHP研究所編「上司の条件」(PHP研究所)

※ 周囲にこうした環境を整えることが、迅速かつ的確な危機対応の第一歩となります。